■北畠顕家　　公卿，武将。南朝方で東国経営にあたり，死の直前，後醍醐天皇に諫草を提出，足利尊氏が最も恐れた。
きたばたけあきいえ
後醍醐天皇・1318＝　　大納言_北畠親房の長男に生まれる。

・・・・・・1322＝ 4歳：従五位上。

・・・・・・1327＝ 9歳：

・・・・・・1330＝12歳：蔵人頭を経ず左中弁。
元弘の乱・・1331＝13歳：従三位。

鎌倉幕府滅亡1333＝15歳：陸奥守。
二条河原落書1334＝16歳：*建武新政下，陸奥守として後醍醐天皇の皇子義良親王を奉じて，父親房とともに陸奥国府・多賀城へ下向し，出羽国をもあわせて管し，鎌倉幕府を模した政治機構を設置，北条氏より没収した郡地頭職を再編するなど，東国経営に努めた。同年，任国にありながら，新政府より従二位に叙せられる。
中先代の乱・1335＝17歳：*鎮守府将軍。とくに"大"の字を賜り鎮守府大将軍と称す。新政府に背いた足利尊氏を討伐するため西上し，園城寺で新田義貞とともに尊氏を西下させる。後醍醐天皇の比叡山からの還幸後，
南北朝分裂・1336＝18歳：_その功により，権中納言に任官され，また陸奥国は親王任国となり，義良親王は太守に，顕家は大介に任ぜられ，常陸・下野両国も奥州府の管轄下に入る。この奥州経営に顕家は，国司下文は所領宛行(あてがい)に，国宣は係争地の渡付(わたしつけ)に，御教書は政務諸事に，また鎮守府大将軍御教書は官途推挙権にというように各種の文書を発給してあたった。その後，陸奥における北朝軍の攻撃のため，国府多賀城から伊達郡霊山城に拠点を移す。
・・・・・・1337＝19歳：*尊氏の九州からの東上を防ぐため，後醍醐天皇の命により義良親王を奉じて霊山城を発向。結城宗広を侍大将とし，奥州14郡の勢力を率いて白河の関を越え，下野利根川で足利義詮軍を大破，鎌倉に入る。
足利尊氏将軍1338＝20歳：*鎌倉を発向し，途上宗良親王・北条時行らを加えた。この進撃には奥州産の駿馬による騎馬軍が背景にあったといわれる。さらに美濃志賀の渡，墨俣川，青野原で土岐頼遠・桃井直常軍を打ち破ったが，しかし顕家は，新田義貞とは合流せず，伊勢・伊賀を経て大和に入る。間もなく高師直軍と戦うが，顕家軍は「長途ノ渡武者」の集団であったため大敗し，顕家は河内へ，義良親王は吉野へと逃れた。同年，摂津天王寺において細川顕氏軍を破るが，顕氏軍を来援した高師直軍と和泉堺・石津浜において戦うが敗れ，吉野へ逃れようとしたところを，阿倍野で武蔵国住人，越生四郎左衛門尉という者に討たれ，頸を円後国住人の武藤政清に取られる。顕家の霊は現在，阿倍野神社・霊山神社に祭られている。なお，この合戦の出陣前に「顕家諫奏」を後醍醐天皇に上呈し，建武新政府に対する批判を行ったことは有名である。

「没年日本史人物事典」，「人物日本歴史館」，「日本の群像」，平凡社百科事典，